整理番号

D－2－3　　791

標 題 名

稲泥負虫の防除について

著 者 名

発行者名

上川支庁

発 行 年

昭和１４

製作年月

平成２９年３月

昭和十四年三月

防除の一時農業報國

水稻病害蟲防除資料第三號

稻泥負虫（いねどろおいむし）の防除（ぼうじょ）に就（つい）て

上川支廳
農事試驗場上川支場
上川外四郡農會

水稻病害虫防除資料第三號

稻泥負虫の防除に就て

稻泥負虫が稻作に對して如何に恐しい害をなして居るかは今更申す迄もないが是が防除には藥劑撒布に依るのと舟形網を使用するのと二つの方法があるが舟形網を使用すると稻を傷め生長をおくらせ時には稻熱病發生の誘引となる之に反し藥劑（砒酸石灰）撒布に依る方は此の様な心配がない許りでなく泥負虫を完全に殺すから此の方が非常に効果が大である北海道農事試驗場や各地農家の實際の成績に依つて觀ても舟形網四回使用のものより藥劑一回撒布のものの方が反當少くとも一斗多い時は三斗の増收を示して居り藥劑を二回乃至三回使用すると尙一層増收が大となる故是非左の藥劑に依る防除を實行せられたい

一、砒酸石灰（ニホナート、リマート、砒酸石灰等）液を適期に撒布すること

撒布の時期

此の虫は七月下旬まで稻の葉を食害するものであるから發生の徴候ある場合は必ず早目に撒布を行ふこと卽ち

第一回　六月中旬　反當約二斗乃至四斗

（温床苗代　水苗代に於ては本田移植前に撒布すること）

第二回　六月下旬　反當約四斗

第三回　七月上旬　反當約六斗

藥劑は一乃至二週間置きに撒布すること

撒布は晴天で風のない日中が最もよく朝露のある間や雨天の日又は撒布後降雨のある時は撒布した藥が流されて効果がうすくなるから注意が肝要である

二　砒酸石灰（ニホナート、リマート砒酸石灰等）液の調製法

調合量	砒酸石灰	水
	二〇匁―二五匁	一斗

例へば一斗の藥劑を作る場合は先づ十五匁のカゼイン石灰又は大豆粉を布袋に入れ水中で揉み出しカゼイン石灰（又は大豆粉）水を作り之れに二〇匁乃至二五匁の砒酸石灰（水にてねるか又は布にて揉み出す）を加へて充分攪拌すればよい

●備考時局の影響に依り展着劑たるカゼイン石灰は本年から製造が出來なくなつたので之の代用として大豆を原料とした展着劑（久美愛カゼイン、大豆カゼイン石灰、植物性カゼイン石灰等を）使用せねばならなくなつた。その使用量や使用法は從來のカゼイン石灰と全く同じであるが之は變質し易く且つその變質は見合け難いものであるから使用に當つては必ず農會に尋ねられたい

カゼイン石灰又は大豆粉	一五匁
水	一斗

三　ボルドー合劑に混用する場合

泥負虫防除と稻熱病の豫防（七月上中旬）とを同時に行ふ時は六斗式等量ボルドー合劑に砒酸石灰を混用すること

調合量	六斗式等量ボルドー合劑（展着劑加用のもの）	
	一	斗
	砒酸石灰	
	二〇匁―二五匁	

●備考完全に出來上つた六斗式等量ボルトー合劑（硫酸銅一二匁生石灰一二〇匁（生石灰の品質の惡いものがあるから少し多目に用ひた方がよし）水六斗の割合に展着劑松脂曹達液又はボルドソープ等）をも加へて完全に出來上つたものに砒酸石灰を前の様にして加へる

上川支廳
農事試驗場上川支場
上川外四郡農會
役場
農會

昭和十四年三月

◉見易き處に貼つて置いて下さい

病害蟲防除督勵委員名簿

水稻病害虫防除資料第五號

◎時局に鑑み上川支廳では稻熱病と泥負虫を根絶する爲に左記の人々に督勵委員を依囑して防除の指導連絡と督勵に奉仕して頂く事になりました

督勵委員も一般農家も互に相連絡して水も洩さぬ防除陣を張つて今年こそは各自の督勵區內から一つも病害虫を出さぬ樣にして生産を高め國家の爲に盡しませう

◎富良野町

霜村助松　小林原一郎　山內熊治　長江清吉　古田己一　齊藤貞五郎　堀川卯一　曳地久右衛門　大西[illegible]次　中川豊次郎　岡野實義　宮川甚之丞　高松吉藏　中島源次郎　倉前一　森田作太郎　岡本勘一郎　渡邊五[illegible]　市山吉藏　渡邊福松　石黑久治　立石大吉　高木勇　林文太郎　多賀與三次郎　合田正雄　井上善作　當瀨米次郎　高嶋五作　藤井德郎　對馬豊作　今井一松　田中龍馬　奥山庄三郎　柿原勝次　原庄九郎　後藤清助　登坂與一郎　藤原潤之進　鎌田繁雄　横山三吉　山崎元平　東鄉政吉　佐藤一夫　武部丹次郎　永井甚與　大塚藤七　千葉光司　竹田清　田野清三郎　佐藤新之助　茶畑竹次郎　高柳九平　管野末吉　吉田芳太郎　松辻正夫　山本義雄　長畑博　後藤逐登　柴田德之助

◎中富良野村

細川良雄　青山末次郎　福田米次　松田武治　細木忠一　住友房太郎　佐藤之八　磯江美貴　早川佐太郎　吉田三郎　猿田實　林久右衛門　荒木勇次郎　橋本養明　澤井清市　加野甚太郎　安井慶作　佐々木仁次郎　北川久藏

茂治折平　高松豊　渡邊三郎　出倉留藏　船曳安藝次　水本平右衛門　秋山勇吉　松田筆三郎　平田薰　松村繁雄　佐藤留藏　富樫伊三郎　奥山熊藏　中井柴作　山本松次郎　北太吉　幸田太一　原丑次郎　岩根次郎　瀬戸文助

北海道廳令第十四號

害虫驅除豫防法第三條第一項ノ規程ニ依リ昭和十四年四月十日ヨリ同年九月十日迄上川支廳管內富良野町、中富良野村、士別町、多寄村、風連村ノ水稻耕作者ニ對シ左ノ方法ニ依ル稻熱病ノ驅除豫防ヲ命ズ

昭和十四年四月二十日

稻熱病

一、種籾ハホルマリン消毒ヲ行フコト
二、被害藁ヲ屋外又ハ畦畔ニ其ノ儘存置セザルコト
三、被害藁及籾殼ハ堆肥トシテ積込ミ充分腐熟セシメ又ハ燒却スルコト
四、過石灰ボルドー合劑ノ撒布ヲ行フコト
五、被害藁ハ散亂ヲ防止スルノ方法ヲ講ズルニ非ザレバ之ヲ運搬セザルコト
六、發生初期ニ於テ被害藁ヲ剪除燒却スルコト

◎多寄村

狩野甲辰　金塚喜作　乃生集一　古市豊吉　大熊政[illegible]　上田芳夫　坪井儀一　横井喜錄　大西鶴之進　近藤峰三郎　細川善兵衞　宮本之造　加藤正芳　龍見善吉　高島米次郎　柿崎孝助　矢野庄吉　野原甚吉　小林義次　宮腰榮太郎

山根長一　小野寺千代藏　佐藤儀八　白岩信義　三橋平吉　大能永作　有馬榮太郎　川端猶藏　藤田政市　淺野常吉　森晃　山岡太七　佐々木作太郎　安富德一　佐々木作造　中川伊助　畑靜　加納光治　丹市藏　佐藤芳吉　坪井宇一

井口直次郎　三田豊茂　岡田岩太郎　室本義雄　船崎治郎　日光政治　齋藤平太郎　嵐田利吉

◎士別町

青木清次　及川智治　山根紀一　櫻井健一　木村彌右衛門　澤田幸作　遊佐保太郎　喜多勝[illegible]　村上勇　山本慶太郎　菊地先次市　年藤莊作　平田清郎　荒三十郎　織田柳太治　神田原一　片岡俊郎　別所治太作　折橋伊助　木島六作　横山新八　示澤榮司　長谷川政清　椎名三　岡島宗二　淵澤四十昇　山川義　谷井政次　伊藤松政　澤崎喜代雄　梅井武吉　武山藤助　伊藤善郎　高橋源五郎　松本作次雄　黑川由郎　田淵太造　加藤三助　酒井甚助　梅木彥郎　前田伊三夫　谷口正貢　館田雄　佐久間義章　武田忠肇　鈴木正郎　堀口石太郎　德田政次郎　中山惣太美　平野厚信　沼田春郎　畑万次

佐藤万治　梅木熊吉　尾形好光　佐々木清孝　菅原永六　人橋伊之松　安達金司　富澤千藏　菅原龍美　國分芳夫　安齋彥重　安達芳治　竹內照治　小松利夫　山口範雄　清野清　佐藤文悅郎　佐藤保　土屋喜久司

◎風連村

吉田久藏　中野收助　山田與壽郎　黑田正一　佐藤一郎　山崎力次　山崎勘次郎　平嶋喜代藏　村山角次郎　田中德一　森田信　古林國助　村中佐太郎　青山憲治　伊藤永助　横田美代助　合田岩吉　高木仁藏　守內清三　岡久源吉　後藤惣二　信原惠吉　大久保光治　大西好治　飯田由太郎　東春一　矢合吾一　守谷近治　田中喜代松　川村政右衛門　金松昇　大本儀平　高橋近治　山崎金藏　羽山信一　三輪穰　大宮喜一郎　齋藤彥藏　渡邊鶴雄　永島武治

◉督勵委員の心得

一、督勵委員は受持の水田から稻熱病泥負虫等を根絶させる樣一般農家を督勵して下さい
二、督勵委員の言ふことを聞き入れぬ農家があれば實行組合長(區長)と相談して役場農會に速報して下さい
三、各農家に自分の田圃を常によく注意して見廻る樣督勵して下さい
四、督勵委員は左の事項を徹底的に勵行する樣督勵して下さい
イ、稻藁(籾殼を含む)の處理種籾のホルマリン消毒を完全に實行させること
ロ、毎年稻熱病の發生し易き場所は必ずボルドー合劑を撒布させること
ハ、稻熱病が發生したならば被害稻は必ず刈取り堆肥に積み込むか燒き捨てるかしてその附近にボルドー合劑を撒布させること
ニ、泥負虫が發生したならば砒酸石灰等の藥劑を撒布させること

昭和十四年五月

上川支廳

54.12.12
植物防疫資料館
C－501－4056
木下周太
寄贈
D
2-3
791